

令和5年8月14日

東員町議会総務建設常任委員会委員長

東員町議会
大谷 勝 治

研 修 報 告 書

研修期間	令和5年8月1日（火） ～8月2日（水）【2日間】
研修（視察）先	1日（火）京都府舞鶴市役所 2日（水）美しヶ丘集会場
目的（テーマ等）	1日；meemo公共交通を補完する新しい移動サービスについて 2日；グリーンスローモビリティについて
参加議員名 （複数の場合）	大谷 勝 治 ・ 片 松 雅 弘 ・ 南 部 豊 山 崎 ま ゆ み ・ 大 崎 昭 一
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修 1 日目

【概要】

研修先 京都府舞鶴市市役所

舞鶴市の概要

令和 5 年 4 月推計人口 76,898 人 面積 342.10 km²

- 日本海側の重要拠点都市（国際港湾・国防の拠点・海の安全の拠点・エネルギー拠点）
（エネルギー拠点・広域観光の拠点・ものづくり産業の拠点）
- 都市圏（京阪神、中京圏）とつながる地方拠点都市

【テーマ】舞鶴市の meemo 公共交通を補完する新しい移動サービスについて

舞鶴市出席者

政策推進部企画政策課交通政策担当課長 泉 光信

交通政策係主査 本村 賢吾 行政事務研修生 猪尾 和大

舞鶴市議長 上羽 和弘 舞鶴市議会事務局事務 川崎 弘史

総務課調査課 田中 哲

【共生型 Maas (meemo) 導入の背景】

1 公共交通の課題

- ドライバー不足。
 - ・若い世代からは敬遠。
 - ・バス会社は働き方改革により、令和 6 年 4 月から全体運行時間が減少する。
 - ・タクシーの時間別需要状況、高齢者の通院時間帯午前中供給不足。通常は需要不足
夜の仕事も激減、対 2008 年から売上約 25%減
- 利用者の減少
 - ・地方公共交通の利用者数の減少。
 - ・マイカーが主流。
 - ・コロナの影響からの回復が遅れている。
- 社会の課題
 - ・現在の現状、人口減・経済活動減速で公助と自助の間に共助の取組が必要。
- 第 7 次鶴舞市総合計画 後期実行計画令和 5 年度～令和 8 年度
 - ・住み続けたいまちを支える生活基盤づくりでは共生型 Maas の導入による交通システムの構築に向けた取組。
- 鶴舞市地域公共交通計画令和 3 年度～令和 10 年度
 - ・支線へのアクセス memo
- 2019 年 4 月オムロンソーシャルソリューションズ株式会社との包括連携協定を締結。
 - ・オムロン 2030 年を見据えてバックキャストでかんがえる。

【内容】

meemo 実証実験、実施場所 高野地域（人口2,690人）

住民説明会、令和2年度～令和5年度

実証実験令和2年から実施

○令和4年度 meemo 事業実施のまとめ

- ・特定の利用者だけが利用。一部の住民ドライバーに多くの負担がかかる。
- ・実利用までつながらない（自分で運転、家族が運転、スマホ操作が苦手、免許を保有）
- ・費用対効果で十分な効果をあげられていない。令和4年度事業費 9,304,264 円

○meemo の課題

①利用者・ドライバー数が少ない。

- ・利用者；スマホ操作が苦手、無料送迎を遠慮、移動に困っていない。
- ・ドライバー；報酬がない、時間の制約、責任が重い。

②運営経費が高額

- ・令和5年度当初予算 11,545 千円を計上、自主運行バス路線維持費補助金 3,420 千円に比べて高額。
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（1/2）は計画上、令和6年度までしか活用が出来ない。

③運行エリアが限られる。

- ・新たな交通モードとして運行する meemo は地域公共交通会議での同意を得る必要がある。

④地域住民の関心

- ・現時点で移動に困ってない住民が多く meemo への関心が薄い。
meemo を持続可能なサービスとするために、共助の枠組みの中で地域が自立した取組として進めて行く必要がある。

○課題解決に向けた現在の取組み

①高齢者に利用しやすいシステムにするために、電話による受付を実施（令和5年8月～実証実験）実証実験結果により、令和6年度以降の実施体制について検討を進める

②地域運営組織『高野地域協議会』の設立

③道路運送法に基づく自家用有償旅客運送の登録（有償化）

- ・ドライバー確保のための報酬についての仕組みづくりが必要。
- ・制度としてのサービスとして遠慮の気持ちを払拭して利用のきっかけとする。
- ・運営は高野地域協議会が主体となり市が支出していた運営費を協議会に補助金として

支援をする。

○まとめ

- ・地域交通をふくめ、これからの地域社会を維持していくには共生社会の実現が重要
- ・大丈夫なうちに、未来を見据えた対策を講じる。
- ・持続可能な社会『自律社会』の実現に向けて、引き続き取り組んでいく。

【考察】

近年高齢社会は急速に進み、そのために、地域での高齢者の通院、買い物などの生活に係る、事柄が行政では担えない取組が多く、地域力が増々必要と成ってきています。そして地域公共交通の補完など急速に必要と成ってきています。地域力の要である、共助の土台づくりを早急に進めて行く必要があると思われま

以上

[議員氏名：大谷勝治]

研修2日目

【概要】

研修先 美しヶ丘集会場

【テーマ】 グリーンスローモビリティについて

奈良県王子町グリーンスローモビリティ事業研修

出席者；王寺町議会 沖 優子議長 自治会長上平 隆己

議会事務局山内 健一局長 町広報アドバイザー村田 大地

集会場にて

グリーンスローモビリティ実証実験R4.8/1～R5.1

今年3月からの運行再開はボランティアでの運営

現在サマータイム（週運行日 月・水・金・土）

現在名神北ルート午前10：00～12：00午後15：00～17：00

車両ヤマハ発動 機動力モーター1台（実証実験用車両を引き継ぐ）

【内容】

- ① 定時定ルートで歩いている人も載せることができる。
- ② 高齢者の外出促進や地域コミュニティの活性化につながっている。
- ③ 坂道が多い地域に住む高齢者には良い乗り物だと思う
- ④ 夏場より冬の快適との声が返ってきました。
- ⑤ 乗車体験；思ったより快適、速度19キロメートル

【考察】

丘陵地での乗り物東員町には良いと思います。

時速19キロメートルは乗ってみて意外と早く感じた。

今後東員町でも導入を検討すべきだと思う。